

CSR Environmental Report

2026

小林クリエイト CSR・環境報告書



かけがえのない地球を守るため、
私たちが今できることを…

トップメッセージ



かけがえのない地球を守るため、
私たちが今できることを…

小林クリエイティブ株式会社

代表取締役社長

小林 友也

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本報告書では、当社 2025 年度(2024 年 10 月から 2025 年 9 月)における SDGs、CSR、および環境活動の取組み状況と、その成果についてご報告いたします。

昨今、世界情勢の変化や深刻化する異常気象により、社会の先行き不透明感が増しています。こうした厳しい経営環境下にあっても、当社は持続可能な未来に対する自らの役割を再認識し、カーボンニュートラルへの歩みを加速させています。当期は第 10 工場の本格稼働により生産活動が活発化しましたが、同工場へ新たに導入した太陽光発電設備による再生可能エネルギーの活用や、効率的な運用を通じて、増大するエネルギー需要の適正管理と CO2 排出量の削減に努めてまいりました。事業成長と環境負荷低減の両立こそが、国際社会共通の課題である持続可能な社会への貢献に不可欠であると考えております。

当社もこのような課題に真摯に向き合い、ひきつづき環境スローガンとして「かけがえのない地球を守るため、私たちが今できることを…」を掲げ、地球温暖化対策(CO2 削減)・省エネルギーの実現と、持続可能な社会に貢献する事業に全社一丸で取り組んでまいります。具体的には、原材料の調達・開発・製造・輸送・廃棄(リサイクル)のプロセスにおける環境負荷低減活動を「環境マネジメントシステム(ISO14001 認証)」を有効に活用することで、計画的に実行していきます。また、地域貢献や地域社会とのコミュニケーション活動として、愛・道路パートナーシップへの参加、環境クリーンキャンペーンを実施していきます。

最後に、当報告書の発行に際し、ご協力をいただきました関係各位へ誌上ではございますが厚く御礼を申し上げます。本報告書を御高覧いただき、皆様からのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

2026 年 3 月

SDGs 宣言

私たちは
「SDGs (Sustainable Development Goals) 」
に賛同し
会社と世界の人々の生きがいを創造します。

小林クリエイトは事業を通じて、持続的な社会の維持・発展に貢献することで「ありがとう」と言われる企業であり続けます。

取組内容



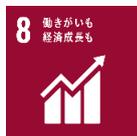
森林資源保護のため、全社で排出される紙資源のロス低減を図ります。



業務継続の重要性を認識し、強固な生産体制を築くとともに、省エネルギーへの取組みを継続します。



情報格差の是正のため、当社が提供する製品へのユニバーサルデザインの利用を積極的に推進します。



既存事業分野の高収益化と、新分野への積極的な挑戦によって、高付加価値製品、サービスを提供し続けます。

具体的な目標を定め、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

環境方針・推進体制

全ての事業活動において『環境負荷の低減』『環境関連法規制の順守』『顧客からの環境関連要求事項の順守』によって、現在および未来の環境保護活動への貢献を目指します。

小林クリエイト株式会社 環境方針

小林クリエイト株式会社は、記録用紙、ビジネスフォーム製品の製造・販売、情報処理サービスなど、全ての事業活動において、経営者及び社員一人ひとりが現在及び未来の地球環境を守ることに貢献します。

環境方針

1. 環境目的・環境目標を定めて見直し、環境マネジメントシステムの自主的な維持向上と運用を通じて継続的な改善と汚染の予防に努めます。
2. 省資源、省エネルギー、環境関連物質による環境負荷の低減、廃棄物の削減、資源のリサイクル化を積極的に推進します。
3. 全従業員に環境教育を実施し、社員一人ひとりの環境活動に対する意識の向上を図ります。
4. 環境保全活動・生物多様性保全活動への積極的な参画による地域社会との共生、環境配慮型商品の開発と提供を通じて、豊かで持続可能な環境社会の実現に貢献します。
5. 環境関連法規制及びお客様からの環境関連要求事項等、当社が認める他の要求事項を順守します。
6. 環境マネジメントシステムは、本社・本社工場、安城工場、東京情報処理センターで運用を行います。
7. 環境方針は、全従業員に周知すると共に、一般への開示を行います。
8. 省エネ・再エネ設備の導入、生産工程の効率化、物流の見直しなど、温室効果ガス排出量の削減に取り組めます。

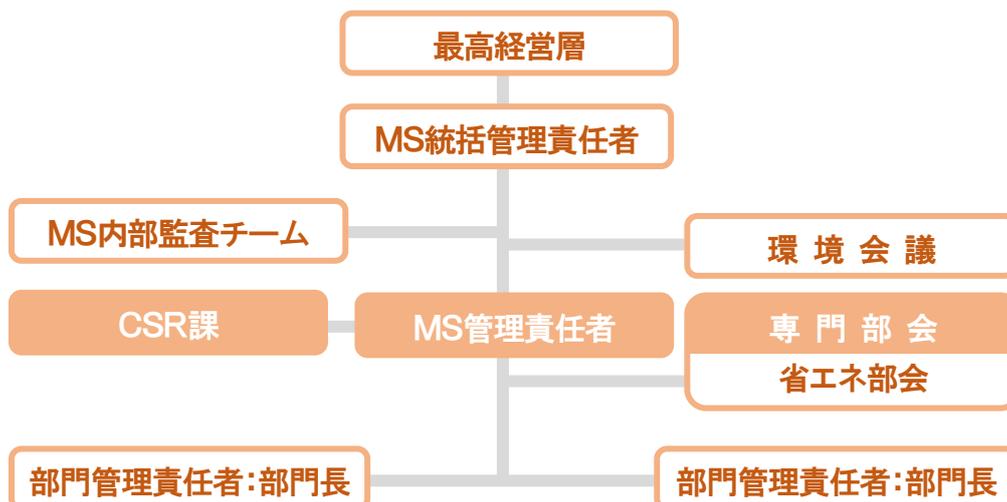
制定日 2000年 3月24日

改定日 2023年10月 1日

【環境スローガン】 かけがえのない地球を守るため、私たちが今できることを…

環境マネジメントシステムの推進体制

環境マネジメントシステム推進組織図



環境保全活動を継続的に実施するため、左記の推進体制を構築・運営しています。

活動は、部門単位で任命された部門管理責任者（部門長）を中心に進められ、定期的に進捗確認をおこなっています。また、専門部会を設置し、全社的な取り組みを実施しています。

コミュニケーション

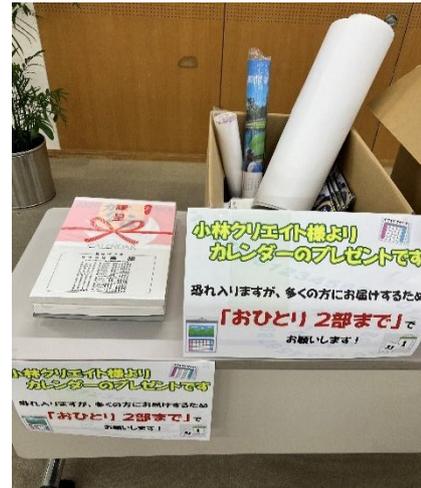
要望・苦情

要望

地元ボランティア団体の要請を受け、余剰のカレンダー・手帳を提供しました。

苦情

苦情はありませんでした。



社会貢献活動 地域とともに

環境クリーンキャンペーン

定期的に本社・本社工場、安城工場において職場近隣の清掃活動を実施しています。



エコキャップ推進活動

本社・本社工場で排出されたペットボトルキャップを収集、NPO法人『世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)』へ提供しています。この活動を通じて、世界の子どもたちへのワクチンの寄付活動に参加しています。

※この活動を通じてリサイクルの促進、CO₂の削減にも寄与しています。

就労支援

特別支援学校の作業体験授業（メモ帳製作）で使用される上質紙を無償提供し、活用していただいています。

愛・道路パートナーシップ事業

行政の活動趣旨に賛同し、社会・環境への貢献と地域の美化を目的として定期的に活動しています。



内部監査

2025年度は、延べ8名の内部監査員により、MS管理責任者、対象部門に対して内部監査を実施しました。内部監査では、重点監査項目及びマネジメントシステムの有効性に重点を置いた監査方法を取り入れています。

年度	対象部門	是正要件件数	観察事項件数	肯定的観察事項件数
2023年度	11部門	4件	15件	11件
2024年度	10部門	2件	18件	5件
2025年度	6部門	1件	10件	0件

環境リスク

緊急事態への対応

本社・本社工場、安城工場では、環境への影響リスクが大きいと想定される緊急事態を特定し、直接又は間接要因で起こりうる有害な環境影響を予防・緩和するための手順を定めています。その特定した緊急事態に対し、年に1回主管部門が対応テストを実施しています。産業廃棄物収集運搬業者様にも参加いただき手順の有効性を確認しています。

発生場所	想定される緊急事態	生じる環境影響
本社・本社工場		
三次処理施設	処理不能物の投入、装置故障、配管の破損・破裂による規制値オーバーの汚水の流出	水質汚濁 土壌汚染
廃油缶	廃油回収作業ミス、廃油缶の転倒・破損による防油堤外への廃油の流出	
ドラム缶（廃洗浄液）	ドラム缶の破損転倒による防油堤外への廃洗浄液の流出	
水処理装置（水棒ピット）	装置の故障による規制値オーバーの汚水の排出	
廃液保管庫	廃液回収装置の破損・取扱不備による防液堤外への廃液の流出	水質汚濁 土壌汚染 悪臭
安城工場		
三次処理施設	処理能力の低下、処理不能物の投入、装置故障、配管の破損・破裂による規制値オーバーの汚水の流出	水質汚濁 土壌汚染
危険物屋内貯蔵所	貯蔵所倒壊、容器破損による溶剤、油の流出	



発生事故とその対応

本年度、発生した事故はありませんでした。

環境パフォーマンス

環境への改善活動を効果的に進めていくために、自らが発生させている環境への負荷やそれに係る対策の成果を常に把握し監視しています。

化学物質管理 (PRTR 法該当物質取扱量内訳)

物質名	取扱量 (kg)	%
トルエン	251.69	39.52
ほう素化合物	168.32	26.43
マンガン及びその化合物 (マンガンとして)	83.61	13.13
1,2,4-トリメチルベンゼン	61.88	9.72
その他	74.41	11.20
合計	639.91	100

エコバランス

自社内における直接的な排出だけでなく、自社事業に伴う間接的な排出も対象に監視しています。

INPUT

エネルギー	電気	12983 千 kwh
	都市ガス	282 千 m ³
	LPGガス (オートガス)	7 t
	ガソリン・軽油・灯油	31 kL
原副材料	原紙	14637 t
	インキ・糊・溶剤	138 t
	フィルム・版材	7 t
	梱包材 など	618 t
水	上水	11 千 m ³



OUTPUT

廃棄物	総廃棄物量	3,496 t
	焼却・埋め立て廃棄物量	72 t
	ヤレ紙発生量 (紙へのリサイクル)	2,245 t (1,884 t)
	排水	処理水量 8 千 m ³

パフォーマンスデータ

		本社・本社工場			安城工場			東京情報処理C		
エネルギー投入量	単位	2023	2024	2025	2023	2024	2025	2023	2024	2025
電気使用量	千 kwh	8778	9002	9995	1884	1759	1831	1139	1112	1157
ガス使用量	千 m ³	213	225	249	28	28	33	-	-	-
※太陽光発電実績	千 kwh	-	-	168	-	-	-	-	-	-
排出量データ	単位	2023	2024	2025	2023	2024	2025	2023	2024	2025
総廃棄物量	t	2619	2618	2651	633	648	676	190	181	170
インキ廃棄量	t	4.0	2.0	2.8	0.2	0.2	0.2	0.6	0.7	1.0
糊廃棄量	t	4.7	5.4	4.1	0	0	0	-	-	-

※太陽光発電実績：再生可能エネルギーのため INPUT エネルギーには加算していません

GHG 排出量 ※全社 (tCO₂)

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
Scope1	888.4	888.3	961.3
Scope2	6,179.3	7,023.1	6,970.4
Scope3	115,111.4	118,663.4	144,232.0
合計	122,179.1	126,574.8	152,163.7

自らの排出だけでなく、サプライチェーン排出量の算定・監視も進めています。

- ※Scope1 (温室効果ガスの直接排出)
- Scope2 (他社から供給された電気等使用)
- Scope3 (事業活動に関連する他社排出)

CSRの取り組み

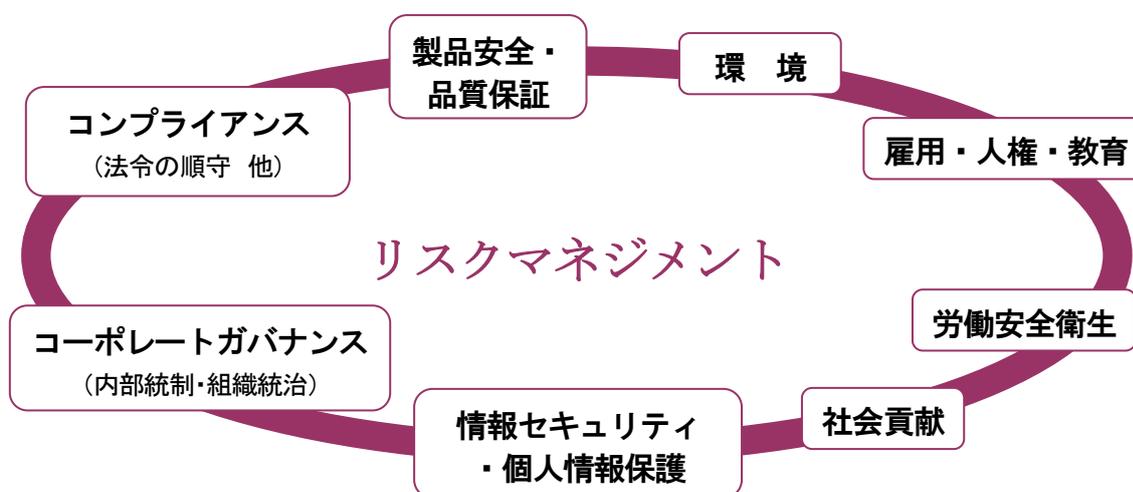
当報告書では、当社が推進している“CSR”として包括される諸事項について、施策毎の切り口で、これまでの主な取り組みや体制及び直近の主要な取り組みの内容についてご報告しています。

小林クリエイト株式会社のCSR

当社のCSR推進における基本は「社訓」「経営理念」とし、各施策やマネジメントシステム毎に適切な基本方針を設定し運用しています。

社訓・経営理念

CSRの推進に当たっては、創業以来『社訓』として掲げてまいりました「誠実・感謝・和協・愛情・奉仕」を基調に、『経営理念』を掲げ、社員への自覚を啓蒙しています。



コーポレートガバナンス、コンプライアンスへの取り組み

当社は、取締役会、監査役会設置会社として経営に関わる内部統制を行っています。

品質管理への取り組み

製品製造に関わる全工程においてISO9001（品質マネジメントシステム）認証を取得しており、“お客様にご満足頂ける製品・サービス”のご提案・ご提供を目指してまいります。

リスクマネジメントへの取り組み

「リスクマネジメント基本規程」を制定し、会社を取り巻く各種のリスクを評価し取り組むべき課題を明確にしています。

労働安全衛生の取り組み

法令を順守し、さらに職場における危険性や有害性を調査し、その結果に基づいて災害防止策を講じています。

情報セキュリティ・個人情報保護への取り組み

お客様からお預かりした情報（データ）や個人情報の機密性を最大限に確保することを重要な課題と位置づけ、プライバシーマーク認証、ISO/IEC27001（情報セキュリティマネジメントシステム）認証を取得し、確実な運用と継続的改善を進めています。

小林クリエイト株式会社

<http://k-cr.jp>

本社 〒448-8656 愛知県刈谷市小垣江町北高根 1 1 5 番地
TEL 0566-26-5310 FAX 0566-26-5308

お問い合わせ先

総務部 CSR課

〒448-8656 愛知県刈谷市小垣江町北高根 1 1 5 番地
TEL 0566-26-5201 FAX 0566-26-5399
e-mail csr@k-cr.jp



JQA-EM7719

認証サイト：本社及び本社工場 安城工場
東京情報処理センター